

## 四季成り性イチゴによる春植え夏秋どり栽培の定植時期と品種

大木 淳

(山形県最上総合支庁産業経済部農業技術普及課産地研究室)

Effect of Planting Time and Variety on Summer and Autumn Production using Everbearing Strawberry

Atushi Ooki

(Agricultural Technique Improvement Research Office, Agricultural Technique Popularization Division Industrial and Economic Affairs Department, Yamagata Mogami Area General Branch Administration)

### 1 はじめに

国内のいちご生産は夏秋期が端境期となっている。近年、長日高温条件下においても花芽分化が容易な四季成り性品種が開発され、夏期冷涼な中山間地域を活用した夏秋どり栽培に期待が高まっている。そこで、無加温ハウスを利用した春植え夏秋どり栽培の定植時期と品種について検討したので報告する。

### 2 試験方法

#### (1) 試験1 定植時期の検討

##### 1) 試験区の構成と目標収量

供試品種は、「ベチカ」、「エッチェス-138」で、冷蔵苗を30日育苗した株について、定植時期を「4月下旬区」(4月26日定植)、「5月上旬区」(5月10日定植)、「5月下旬区」(5月24日)の3区とした。目標収量は秀品収量で200kg/a以上とした。

##### 2) 栽培概要

2004年3月25日、4月9日、4月22日に冷蔵苗を9cmポリポット(培養土:ピートモス粉殻配合)に仮植し、それぞれ約30日間育苗した。育苗時の最低温度は15℃とした。定植は、無加温ハウスに行い、うね幅1.35m、株間20cm、2条植えの土耕栽培とした(740株/a)。基肥は、各区ともa当たり窒素成分で1.5kgとし、追肥は、定植1ヶ月後から約7日間隔にa当たり窒素成分0.3~0.4kgを行った。株養成管理は、育苗時から定植後1ヶ月間に発生した花房を除去し、定植1ヶ月後から2ヶ月後までに発生した花房は、1花房8個を基準に摘花管理を行った。腋芽数は最大4芽で管理した。遮光は、6月14日から行い、遮光率は約40%とした。

#### (2) 試験2 品種の評価

供試品種は、「ベチカ」、「エッチェス-138」、「エラン」とし、「ベチカ」、「エッチェス-138」は30日育苗した株、「エラン」は播種後80日育苗した株について5月10日に定植した。栽培概要については試験1に準ずる。

品質評価は、硬度、糖度、酸度について、経時的調査を行うとともに、新庄市内の製菓店に果実を供給し、市場性を調査した。

### 3 試験結果及び考察

#### (1) 定植時期と収量(図1, 表1)

a当たり秀品収量で200kg以上を示した区は、両品種とも「4月下旬区」、「5月上旬区」であった。「4月下旬区」の収穫果数のピークは8月であったが、商品割合が著しく低下した。これは高温条件下にあったことによる。一方、「5月上旬区」の収穫果のピークは、高温後の9月であった。このため、「4月下旬区」は、収穫開始が早かったが、収穫ピーク時の商品割合の低下により、「5月上旬区」よりも総秀品収量が劣った。ただし、定植時期の前進化により高収量になる試験例もあり<sup>1)</sup>、年次間差が大きいと考えられる。「5月下旬区」は、外品を含め収穫個数が少ないため、本作型による秀品200kg/aの確保は難しく、株養成技術の検討等が必要と思われる。また、本試験では夏季冷涼な中山間地地域でも高温期の品質低下が著しく、安定した収量を得るためには、耐暑性に優れた栽培法の開発が必要である。

#### (2) 品種と品質(図2, 図3, 表2)

商品階級は、3品種とも30玉~36玉が中心で、「ベチカ」はやや大玉傾向であった。果実硬度は、「エッチェス-138」が高く、日持ち性に優れた。一方、「ベチカ」、「エラン」は、貫入応力200~300g水準の果実で収穫後の荷傷みが観察され、7~8月の果実は日持ち性が劣った。糖度は総じて「ベチカ」が高く、「エッチェス-138」、「エラン」は同水準であった。酸度は「エラン」が高く、「ベチカ」と「エッチェス-138」は同水準であった。

製菓子店による品質評価は、店舗に供給されるカルフォルニア産の輸入イチゴを基準に比較検討が実施された。この結果、「ベチカ」は甘味が高く食味が優れる点、「エッチェス-138」は形状と肉質が優れる点で、輸入イチゴより高い評価であった。一方、「エラン」は形状が劣り、甘味が少ない点で輸入イチゴと同等の評価であった。

4 まとめ

市販品種(「ペチカ」「エッチェス-138」)の冷蔵苗を導入し、約30日育苗後、無加温ハウスを利用し春植え夏秋どり栽培をする場合、4月下旬から5月上旬を定植期とすることで、秀品収量がa当たり200kg以上となり、高収益が期待される。地元製菓子店では、国内産の四季成り性イチゴの評価は高く、「ペチカ」は、夏秋期でも糖度が高く食味に優れること、「エッチェス-138」は、果実

硬度が高いこと等で輸入イチゴと差別化が可能と思われる高需要が期待できる。

引用文献

- 1) 山田 修, 千田 裕, 土田泰輔. 2004. 岩手県におけるイチゴの種子系品種を用いた夏秋どり栽培技術. 東北農業研究 57:193-194

表1 各定植区における月別の収穫果数と商品、秀品割合

定植期	品種	6月			7月			8月			9月			10月			11月		
		収穫 <sup>1)</sup>	商品 <sup>2)</sup>	秀品 <sup>3)</sup>	収穫	商品	秀品	収穫	商品	秀品	収穫	商品	秀品	収穫	商品	秀品	収穫	商品	秀品
		果数	割合	割合	果数	割合	割合	果数	割合	割合	果数	割合	割合	果数	割合	割合	果数	割合	割合
4月下旬	ペチカ	31	23	54	42	49	55	48	18	71	34	24	83	10	22	83	51	54	80
	エッチェス-138	44	41	13	36	45	67	95	25	82	19	43	87	10	16	50	39	38	63
5月上旬	ペチカ	8	0		44	59	52	7	42	73	61	39	89	8	41	78	49	30	75
	エッチェス-138	10	0		46	51	62	50	32	92	90	42	87	14	32	58	32	31	70
5月下旬	ペチカ				37	23	46	14	39	74	32	41	85	22	18	83	26	40	88
	エッチェス-138				1	28	25	42	31	83	22	26	86	22	10	88	20	7	90

1): 1株当たり 2): (商品果数/総収穫果数)×100 3): (秀品果数/商品果数)×100

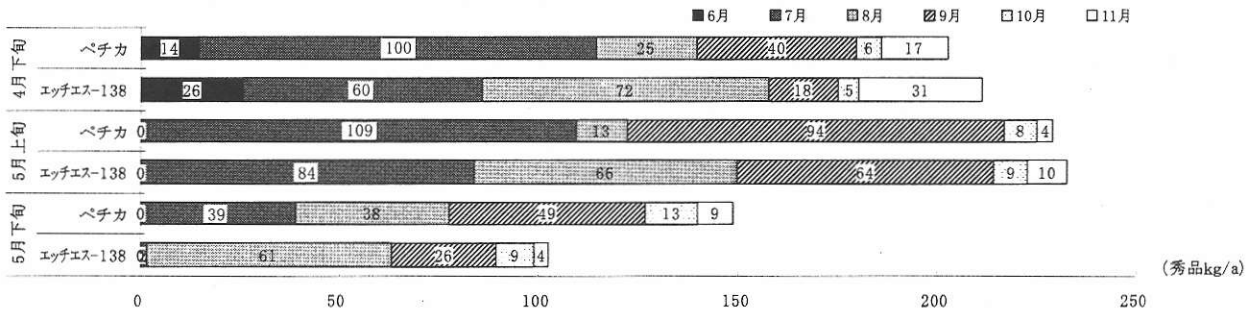


図1 各定植区における秀品収量の月別値と累積値

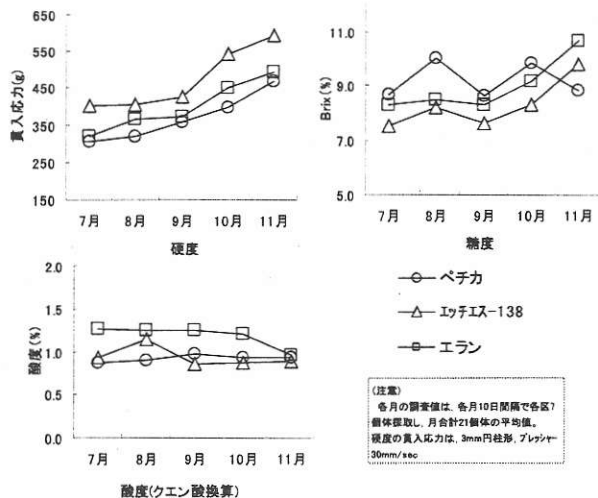
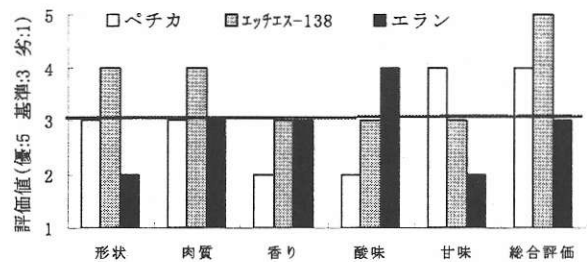


図2 各品種の果実品質の推移 (5月上旬定植)

表2 各品種の商品階級割合と平均1果重 (5月上旬定植)

品種	16玉	20玉	24玉	30玉	36玉	平均
	≥25g	25g> 18g≥	18g> 13g≥	13g> 9g≥	9g> 7g≥	
	%	%	%	%	%	g
ペチカ	0.0	7.6	15.6	36.3	40.4	9.5
エッチェス-138	0.0	0.1	1.2	38.7	60.1	8.4
エラン	0.0	2.5	11.1	37.4	48.9	9.0



(注意) 製菓店M店は山形県新庄市内、8月～9月に4回供給。基準は輸入品(カルフォルニア産)

図3 製菓店M店の評価